

2020.3.11 被災地に希望の虹

さらなる支援活動の継続と展開を



この日、被災した各地で大きな虹が見られた(2020.3.11 16:32 気仙沼市弁天町にて)

撮影：板東論史さん

私も4回参加し、全国各地から駆けつけたボランティアの方々と一緒に作業しましたが、多くのことを学びました。その一つは、被害に遭って困っている人がいたら、サッと現場に向くことの大切さです。もちろん、装備も含めて充分な準備をして参加されているのですが、一緒に作業したボランティアの方々と話をする、実に明るく、隣人に対するように、親切な、また丁寧な姿なのです。胸が熱くなり、また嬉しくなりました。私たちの活動も、このことを忘れてはいけないと思いました。

さて、ひかりプロジェクトも発足して5年目を迎えました。これまで、いろんなご縁でつながりができた活動に取り

は全国で6回発生しました。ひかりプロジェクトでは、台風15号、19号による東日本各地の強風や水害に伴う被害に対して、被災地へのボランティア活動を呼びかけ、延べ7回、千葉県と栃木県で活動いたしました。

昨年日本では多くの自然災害が起こりました。主なもので、10月の台風19号、9月の台風15号、8月の九州豪雨によるもの、そして震度5弱以上の地震

組んできましたが、改めて、私たちの活動指針というものをまともなりました。もとより、人の面でも財の面でも限られていますが、私たちの実力を踏まえて、できることを息長く続けていくことを確認しました。

また、被災地の状況把握をしたうえで、現地のニーズを調査し、それに応えていくために「災害情報連絡員制度」を設けることとしました。『ひかり新聞』37号や今号4頁でもご案内していますが、そんなに堅苦しい仕組みにはしません。何かあった時に周辺の情報を送っていたかどうかというものです。この活動にご理解頂き、ぜひ連絡員をお引き受けくださるよう、お願いいたします。

今年も、4月14日・16日の熊本地震4年追悼行事への支援、7月末に開催される第9回ドリームキャンプの準備から始まる支援が決まっています。

役員をはじめ、それぞれが役割を果たしてまいりますので、どうぞご支援ご協力をお願い申し上げます。

みやぎチャレンジプロジェクト ご寄付のお礼

今年も赤い羽根共同募金「みやぎチャレンジプロジェクト」において『第9回ドリームキャンプ気仙沼大島』へ、全国より多くの方にご協力頂きました。3月31日に締切られ、目標額60万円に対し、716,000円のご寄付を頂きました。

皆様の温かいご支援に、この紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

ひかり新聞

共生共助の社会をめざす

2020.4.7
No.38

一般社団法人
ひかりプロジェクト

息の長い活動ができる「J」を願って

理事長 藤原真久

あれから9年 式典規模縮小のなか慰霊の祈り



2020年3月11日、あれから9年。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、各地では規模を縮小して、慰霊の集いが開催された。

私たちは、被災地のことを忘れず、また被災者に寄り添い、支援を続けていきたい。時間と共に、被災された人たちのニーズも、私たちの支援の形も変わってくる。あの日のことを忘れず、いつまでも心に留めて…。

(写真はインターネットより転載)



東日本大震災の復興をけん引するプロジェクトとして整備が進む三陸道は、全線開通まであと1年。宮城県内では、仮称・気仙沼湾横断橋を含む気仙沼港ICー仮称・唐桑南IC (7.3km)、小泉海岸ICー本吉津谷IC (2km)を残すのみとなった。

気仙沼湾横断橋は、橋桁の設置が大幅に進み、残り60mほどである。

気仙沼の今

奥原 幹雄

(ドリームキャンプ実行委員長)

震災9年目を迎えた被災地では、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、自粛ムードに包まれた慰霊祭や復興イベントになった。被災地を訪れる人も、例年より少なかったように感じられた3月11日だった。

しかし、10年という節目を目前に、被災地の復興は着実に進んでいる。



気仙沼 内湾にかかる橋



2020年秋に完成予定の南三陸町震災復興祈念公園

三陸道は、仙台市と青森県八戸市を結ぶ、総延長350kmで、国土交通省は2020年度内の全線供用開始を明言しており、当初から目標としていた「東日本大震災から10年以内の全線開通」まで、あと一歩となっている。

橋桁がつながるのが5月下旬の予定で、道路の舗装も含めて12月には完成の予定。

昨年4月に開通した気仙沼大島大橋に続く、復興のシンボルとなるであろう横断橋の完成によって、気仙沼湾の景色も、大きな変化を見せている。



東日本大震災で犠牲になられた方々の名簿が納められている「名簿安置の碑」



『祈りの丘』 頂上に設置された名簿安置の碑(右)

第9回ドリームキャンプ

今年も子どもたちに夢と笑顔を、そして地域のリーダー育成を願いとして、被災地復興支援のドリームキャンプを下記概要にて計画しています。

新型コロナウイルスの影響で様々な活動が制限され、各方面に多大な影響が出ているなかではありますが、実行委員会としてはドリームキャンプ開催に向けて、粛々と準備を進めていきたいと思っております。

- *日程 7月24日(祝)~26日(日)
- *会場 気仙沼大島休暇村キャンプ場
- *対象 小学生、中学生
- *参加費 3,000円

どうぞよろしくお願いいたします。

恩返しをしたい

移動図書館おあしす代表 橋本信一

2020年4月で、熊本地震の発生から4年になります。死亡された方は関連死を含めて26人、ピーク時の避難者は18万人でした。

熊本県下には、110か所の仮設団地があります。熊本県下には、110か所の仮設団地がありましたが、災害公営住宅の整備などが進み、今では、仮設団地を数か所に集約する取り組みが進められています。

被害が大きかった熊本県益城町では町内にある18か所の仮設団地を、木山仮設団地の1か所に集約する取り組みが始まっています。

木山仮設団地(220戸)は、私たち移動図書館が最初に活動を始めた場所です。今でも毎週活動を行っています。本を

貸し出し、お茶を飲み、談笑する中で、利用者の方は、様々な悩みを打ち明けてください。

美容室を営んでおられたAさんは、店舗兼自宅を失いました。それでも再建を果たそうと大切なハサミや諸道具を保管しておられました。仮設団地での生活にも慣れたころ、健康だった夫が亡くなります。突然死でした。

また、Bさんは、地震で家族3人を亡くされ、その後、夫が脳梗塞で倒れました。Bさんは夫に寄り添い、懸命にリハビリに取り組んでおられます。

私は、そうした方々と週に一度会い、話を聞き、助かりを願いながら、元氣が出るような本を貸し出しています。

熊本地震は震度7の地震が2回起こりました。4月14日と16日の地震発生時刻に今年も追悼行事を行います。お亡くなりになられた方々のことを祈り、復興を願います。全国から大勢のボランティアの方々が集まってきてくださいます。

今年は、新型コロナウイルスの関係で、規模を縮小して行わざるを得ませんが、それでも竹灯ろうに火を灯し、犠牲者の方を悼む祈りを、皆さん方と共に捧げたいと考えています。

木山仮設団地では、月に1回、子ども食堂を開催しています。私たちボランティア、団地に住む子どもたち、そしてその保護者の方が協力して行っています。

私は、こうした活動にかかわる中で感じることもあります。それは、仮設団地に住む人たちが、何事にも協力的だということです。仮設団地に住む人

たちは、全員家を無くした人たちです。地震発生当初から、自衛隊や警察、消防、自治体の職員、そして大勢のボランティアの人たちに助けてもらったとの実感を持っておられます。そして、助けてもらった恩返しをしたいと考えておられます。

各地で自然災害が起こると、団地で募金活動が始まるのも、その気持ちの表れだと思えます。助けてもらったという実感と、そのご恩に報いたいという尊い気持ちに触れ、私も元氣になります。「ボランティアに行った私の方が元氣をもらう」ということをよく聞きますが、私もその一人です。

ひかりプロジェクトの方々には、移動図書館、追悼行事、子ども食堂の各行事に多大なご支援をいただいております、お礼申し上げます。

今後とも、引き続きご支援をいただきたく、お願いいたします。



竹灯ろうに点火 (2019年4月)



木山仮設団地での「子ども食堂」の様子



昨年の追悼行事でNHKの取材を受ける
仮設団地の子どもたちと橋本さん

自然災害に対する防災意識を高めていただくために、ぜひ知っておいてほしいことをシリーズでお届けします。

災害による被害をできるだけ小さくする基本は「自助、共助、公助」の組み合わせです。

いつ、どんな場合でも「自分の命は自分で守る」が基本です。ふだんからの備えを心がけてください。もちろん、個人では限界があります。地域で協力して被害を最小限に食い止め、被災した人を救助するなど、「共助」が必要です。

国民や住民の生命と財産を守ることは、国や地方公共団体の大きな任務です。災害が起こったら、自衛隊や、消防、警察などによる救助活動、避難所の開設、救援物資の支給、仮設住宅の建設などが行われます。それ以外にもソフト・ハードの様々な対策が行われます。これらは「公助」の部分ですが、やはり順番は「自助、共助、公助」ではないでしょうか。

【家族防災会議】のすすめ

よく言われることですが、いざという時に備え、災害時の対応や連絡方法について、家族で話し合っておくことが大切です。

① ハザードマップや被害想定から、自分の住む地域の災害リスクを確認する。

② 大地震に備えたわが家の安全確認（危険な所はないか、また身を守りやすい安全な場所を確認しておく）

③ 避難場所や避難所への経路を、昼間と夜間に実際に歩いてみる。

④ 家庭内での備蓄品（期限切れの食品や薬はないかなど）と、保管場所の確認。

⑤ 非常用持ち出し品の準備（季節によって中身が変わる）。

⑥ 消火用品、防災資機材などの準備。

⑦ 災害時の行動確認。高齢者がいる家庭では、その避難方法、ガス栓・ブレーカの措置など。

⑧ 家族の連絡方法の確認。災害用伝言ダイヤル（17）や災害用伝言板などの安否確認ツール、ツイッター、SNSなどの活用。

ひかりプロジェクト

第4回定時総会

2月16日(日)、静岡県御殿場市にて、当法人の定時総会が開催されました。

「国内の大規模自然災害時の災害救援支援活動」と「青少年育成活動への支援事業」の取り組みに当社は集中し、組織、体制のあり方を見直すとともに、各事業の中心的役割を果たすメンバーの拡大をはかることとなりました。事業としては、

① 国内被災地への支援活動の継続

② 第9回ドリムキャンプ支援

③ ひかり新聞の発行

などの活動を中心に、また活動のための基盤作りを進めてまいります。会員の皆様にも積極的に参加していただきますよう、お願いいたします。

東日本大震災の支援活動であるドリ

災害情報連絡員募集

ひかりプロジェクト（以下、HPA）では、災害情報連絡員を募集しています。

これは、各地で起こる自然災害に対し、HPAが行える物資の支援や、その後の支援活動のために、現地の生の情報をリアルタイムで伝えていただくためのものです。マスコミによる情報発信も重要ですが、これまでの自然災害時の例として、「どこそで、〇〇が不足している」というニュースが流れると、全国から同じものが殺到するという問題もあります。

私たちは、もっときめ細かい情報発信と、それへの対応を行いたいと考えています。

役割としては、災害発生時の現地情報を、具体的にHPA事務局に連絡していただくことや、被災地で不足している物資、その他のニーズについて情報を発信してもらうことです。

HPAが大々的に救援活動や支援活動を行うことはできませんが、会員やご賛同くださる方々のご協力で精一杯の取り組みをしていきたいと思っております。まずは全国の都道府県に連絡員を配置したいと考えています。賛同いただける方は、HPA事務局までご連絡ください。

ームキャンプや熊本地震の復興支援、また、台風15号・19号の水害被災地対応等継続的に行っていくものや、新規に発生したものに対して、今後の活動として、可能な限り全力で取り組んでいこうと、参加者全員が決意を新たにいたしました。

編集後記

世界各地に感染が拡大している新型コロナウイルス関連のニュースが、毎日報道されています。

このウイルス感染症により亡くなられた方々にお悔やみ申し上げるとともに、感染された方々が一日も早く回復されますよう、お祈りしております。不要不急の外出自粛等、不自由なこともあるでしょうが、ウイルス流行の一刻も早い終息を願い、まずは自分ができることをしていきます。

今号からシリーズで防災一口メモをお届けします。ひかりプロジェクトで

ひかり募金にご協力を！

★ゆうちょ銀行 記号 10890 番号 16718311

★郵便振替 記号番号 00210-2-137823

一般社団法人 ひかりプロジェクト

「防災士の資格取得をお勧めしますが、日本防災士機構の『防災士教本』などから、防災上、私たちが役に立つ情報を取り上げたいと思っております。

ひかり新聞 No.38 2020年(令和2年)4月7日

発行者：一般社団法人 ひかりプロジェクト

〒401-0304 山梨県南都留郡富士河口湖町河口1975

電話 0555-72-8191 FAX 0555-76-6696

https://hikari-project.jimdo.com/ E-mail : hpa@road.ocn.ne.jp